

教育研究業績書

令和 7 年 3 月 31 日

氏名 田中 洋一

研究分野	研究内容のキーワード	
教育工学	教授システム学, 学習環境デザイン, e ポートフォリオ, インストラクショナルデザイン, 社会情動的スキル, デザイン思考, 経験学習	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
1) LMS, e ポートフォリオ, SNS を連携した教育	平成 21 年 4 月～ 現在	行動主義, 認知主義, 社会構成主義に基づく学習環境のデザイン.
2) クリッカーを用いた教育	平成 22 年 4 月～ 現在	双方向型教育の実践.
3) 真正な学習を導く PBL 型教育	平成 25 年 4 月～ 現在	学生が教育内容にリアリティをもてるような Problem Based Learning や Project Based Learning の実践.
2. 作成した教科書、教材		
3. 教育上の能力に関する 大学等の評価		
4. 実務の経験を有する 者についての特記事項		
5. その他		
1) 教育システム情報学会 第 49 回全国大会のプレカンファレンス及び企画セッションの代表オーガナイザ	令和 6 年 8 月	教育システム情報学会全国大会におけるプレカンファレンス「エージェンシー育成のための社会情動的スキルワークショップ: NVC (非暴力コミュニケーション) 編」及び企画セッション「エージェンシー育成のための社会情動的スキルに関する研究」の代表オーガナイザ.
2) FAA 共同研修会「ポストコロナ時代のオンライン授業」のオーガナイザ	令和 5 年 9 月	事例報告「仁愛女子短大での『ゆっくり解説』活用事例」及び総合討論「ポストコロナ時代におけるオンライン授業の可能性」のオーガナイザ
3) 教育システム情報学会 第 48 回全国大会のプレカンファレンス及び企画セッションの代表オーガナイザ	令和 5 年 8 月	教育システム情報学会全国大会におけるプレカンファレンス「エージェンシー育成のための社会情動的スキルワークショップ」及び企画セッション「エージェンシー育成のための社会情動的スキルに関する研究」の代表オーガナイザ.
4) 「第 60 回まなばナイト: デジタルバッジとオンライン大学のこれからに対するポテンシャル」の話題提供者	令和 5 年 6 月	話題提供「カリキュラムレベルでの活用可能性」
5) 「第 59 回まなばナイト: GSIS 修了生のいま～RCiS 連携研究員編」の話題提供者	令和 5 年 2 月	話題提供「情動知能を高める SEL を取り入れたキャリア教育の設計」

6) 「Mahara オープンフォーラム 2023」の運営委員長及び進行	令和 5 年 1 月	テーマ「学習する在り方をモデル化する：モノから関係性へ」
7) 仁短 FD 研修会「シラバス作成のポイント」の講師	令和 4 年 12 月	対面での講習。クリッカー及び Slido の使用。
8) 仁短 FD 研修会「シラバス作成のポイント」の講師	令和 3 年 12 月	Zoom を用いた講習。
9) FAA 共同研修会「同時双方向型オンライン授業の可能性」のオーガナイザ	令和 3 年 10 月	ポストコロナにおける同時双方向型オンライン授業の可能性について議論。
10) 教育システム情報学会 第 46 回全国大会のプレカンファレンス及び企画セッションのオーガナイザ	令和 3 年 9 月	教育システム情報学会全国大会におけるプレカンファレンス及び企画セッション「SEL (Social and Emotional Learning) の高等教育への適応」のオーガナイザ。
11) FBC テレビ「ぶらり子育て喋り隊」への専門家としての出演	令和 3 年 3 月 6 日	ネットモラルがテーマ。
12) 令和 2 年度福井県高教研商業部会視察研修の講師	令和 3 年 2 月 25 日	授業実践を通して、生活情報デザイン専攻の教育（経験学習サイクル、デザイン思考など）を紹介。
13) 福井県立ろう学校研修会の講師	令和 2 年 12 月 24 日	「ICT を活用した授業設計」
14) 仁短 FD 研修会「シラバス作成のポイント」の講師	令和 2 年 12 月 16 日	レクチャー部分はオンデマンド動画とした。
15) 「Mahara オープンフォーラム 2020」の運営委員長及び事例紹介	令和 2 年 11 月 24 日	テーマ「つなぎ、つむぐ、ポートフォリオ：オンライン授業での e ポートフォリオ活用」
16) 「第 47 回まなばナイト：オンラインでのグループワークや WS の実践報告」の話題提供者	令和 2 年 10 月 24 日	話題提供「Jamboard でグループワークしよっさ！」
17) 仁短 FD 研修会「データサイエンス講座：テキストマイニングの事例紹介」のオーガナイザ	令和 2 年 9 月 16 日	「2 年制保育者養成校における AP や DP の分析」(香月) や「保育実習における学びの分析」(中尾) におけるテキストマイニングの事例紹介。
18) 教育システム情報学会 第 45 回全国大会のプレカンファレンス及び企画セッションのオーガナイザ	令和 2 年 9 月 2 日	教育システム情報学会全国大会におけるプレカンファレンス及び企画セッション「SEL (Social and Emotional Learning) の高等教育への適応」のオーガナイザ。
19) 仁短 FD 研修会「遠隔授業研修」2020 年度後期編	令和 2 年 8 月 17 日, 8 月 25 日	対面での「Zoom 入門講座」, zoom での「Jamboard&Google スライド講座」の講師。
20) 仁短 FD 研修会「遠隔授業の実践例」の講師	令和 2 年 5 月 15 日	Moodle を用いた共同体意識の育て方, Zoom を用いたグループワーク「他己紹介」等の活用事例を紹介。
21) 仁短 FD 研修会「遠隔授業研修」2020 年度前期編	令和 2 年 4 月 8 日, 4 月 27 日, 4 月 28 日	対面での「Zoom 体験講座」, Zoom での「Zoom&遠隔授業ガイドライン講座」「Moodle 入門講座」「Moodle 応用講座」の講師。

職務上の実績に関する事項

事 項	年月日	概 要
1. 資格、免許		

2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. その他 1) 情報処理学会の教育学習支援情報システム研究運営委員 2) 日本教育工学会研究会委員 3) 福井県視聴覚教育研究大会（幼稚園の部）助言者 4) 福井県学習コミュニティ推進協議会委員 5) Mahara オープンフォーラム運営委員	平成 28 年 4 月～令和 2 年 3 月 平成 27 年 7 月～平成 29 年 6 月 平成 22 年 4 月～平成 31 年 3 月 平成 22 年 4 月～令和 2 年 3 月 平成 22 年 4 月～令和 5 年 3 月	CLE 研究会の企画・運営等 研究会の企画・運営等 幼稚園における視聴覚教育への助言等 学習チームサブリーダー（～平成 25 年 3 月）、学習チームリーダー（平成 25 年 4 月～平成 29 年 3 月）、PBL ワーキンググループリーダー（平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月） 幹事等

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. e ポートフォリオを利用した知識創造サイクル	共著	平成 29 年 2 月	教育工学選書Ⅱ『教育分野における e ポートフォリオ』	e ポートフォリオ・リテラシースキルに基づき授業を設計した上で、SECIモデルに基づき暗黙知と形式知のサイクルを設計することにより、学習コミュニティが活性化され、知識創造サイクルが促進する事例を報告。 第6章「e ポートフォリオと学習コミュニティ」共著者：山川修， <u>田中洋一</u> 本人担当：6.4 (pp. 141-156)
(学術論文) 1. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材への解決志向アプローチ導入の効果	共著	令和 7 年 3 月	JSiSE Research Report, vol. 39, no. 7, pp. 88-93	プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材「Project 勇者」の解決志向アプローチ版の効果報告。 共著者：白澤秀剛， <u>田中洋一</u> ，甲斐晶子 本人担当：プロジェクト型学習授業での実証実験
2. 存在論的安心尺度の試作-ギデンズを手がかりとして-	共著	令和 6 年 7 月	JSiSE Research Report, vol. 39, no. 2, pp. 114-117	ギデンズの「存在論的安心」を測定する心理尺度を試作し、短期大学生に対してプレ調査した結果の報告。 共著者： <u>田中洋一</u> ，磯和壮太郎，石井雅章，多川孝央，山川修 本人担当：プレ調査
3. フィードバック誘起モデルの開発：量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和 6 年 3 月	情報処理学会研究報告 Vol. 2024-CLE-42, No. 20, pp. 1-6	自己成長を促すフィードバック (FB) をいかに引き出すかに着目し、学習者がどのような準備をして FB を誘起するかについてモデル化した推計式の妥当性を検証。 共著者：可部繁三郎， <u>田中洋一</u> ，山田政寛，石毛弓，山本佐江，合田美子 本人担当：モデルの検証
4. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の実証試験結果-プロジェクト全体像把握と不安のサポート訓練-	共著	令和 6 年 1 月	JSiSE Research Report, vol. 38, no. 5, pp. 47-52.	プロジェクト型学習を行う授業で「Project 勇者」を用いた結果、プロジェクト全体像理解及びプロジェクト中の不安解消に効果があったことを報告。 共著者：白澤秀剛， <u>田中洋一</u> 本人担当：アンケート調査
5. 文系大学におけるオンデマンド型データサイエンス授業の設計：ゆっくり解説を用いた動機づけ	単著	令和 5 年 12 月	情報処理学会研究報告 Vol. 2023-CLE-41, No. 2, pp. 1-4	文系短期大学におけるオンデマンド型オンライン科目「データサイエンス入門」の授業設計、特に動機づけとして用いた「ゆっくり解説」について報告。
6. 社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価-オンラインと対面との比較-	共著	令和 5 年 7 月	日本教育工学会研究報告集 2023 巻 2 号, pp. 101-104	2021 年度のリアルタイム配信授業と 2022 年度の対面授業における授業設計及び授業評価について比較する。 共著者： <u>田中洋一</u> ，多川孝央，山川修，合田美子 本人担当：授業設計

7. 大学連携で取り組む地域協働学習における心理的安全性の効果	共著	令和4年12月	日本教育工学会研究報告集 2022 巻4号, pp. 251-254	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における2021年度授業設計及びClassroom Community Scaleの変化に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修 本人担当: チームビルディング, 評価
8. With コロナな短大入学前学習の設計	共著	令和4年6月	情報処理学会研究報告 Vol.2022-CLE-37, No. 4, pp. 1-4	COVID-19 対策として実施したオンライン授業をふまえ, 2021年度から修正した, 地方私立短期大学における入学前学習プログラムの設計を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 澤崎敏文 本人担当: 入学前学習プログラムの設計
9. 大学連携で取り組む地域の問題解決のための授業設計と評価	共著	令和4年5月	日本教育工学会研究報告集 2022 巻1号, pp. 117-120	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための授業における2021年度授業設計及び内発的動機づけ尺度の変化に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修 本人担当: チームビルディング, 評価
10. 変革に適応するキャリア教育の設計: SELによるストレス対処力の変化	共著	令和4年5月	JSiSE Research Report, vol. 37, no. 1, pp. 40-43.	オンラインのキャリア教育科目においてSELを設計したところ, 主体的なキャリア形成に必要な進路選択自己効力及びストレス対処力SOCの変化について報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 多川孝央, 山川修, 合田美子 本人担当: 授業設計
11. SDGsを学ぶマイプロジェクトの授業設計	共著	令和4年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第54号	生活情報デザイン専攻におけるSDGsを学ぶマイプロジェクトの授業設計, ICTを活用した授業運営について報告. 共著者: 田中洋一, 前田博子, 澤崎敏文, 橋本洋子, 内山秀樹 本人担当: 授業設計
12. 変革に適応するキャリア教育の設計	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 7, pp. 19-22	Society5.0に対応する人材を育成するためにはSocial and Emotional Learningが重要と仮説を立て, 遠隔で実施したキャリア教育科目におけるSELの設計及び進路選択自己効力に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修, 合田美子 本人担当: 授業設計
13. フィードバック誘起モデルの開発: 量的アプローチによる推計式の試作	共著	令和4年3月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 7, pp. 23-28	自己成長を促すうえで必要な良質なフィードバック(FB)をいかに引き出すことができるかに着目し, 学習者がどのような準備をしてFBを誘起するかのモデルを開発. 共著者: 可部繁三郎, <u>田中洋一</u> , 山田政寛, 石毛弓, 山本佐江, 合田美子 本人担当: 変数の心理尺度

14. 大学連携授業におけるプロセス・エデュケーションの設計：フィードバックの心理的安全性への影響	共著	令和4年1月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 5, pp. 24-27	FAA科目「ファシリテーション基礎」におけるプロセス・エデュケーションの設計と実践結果を報告。 共著者：田中洋一，山川修，合田美子 本人担当：授業設計
15. 幼児教育におけるeポートフォリオの設計	共著	令和3年7月	JSiSE Research Report, vol. 36, no. 2, pp. 58-60	生涯教育に繋げるための、幼児教育におけるeポートフォリオの設計について報告。 共著者：田中洋一，中尾繁史，増田翼，森本康彦 本人担当：全体統括
16. オンライン授業のためのFD活動のリデザイン	共著	令和3年3月	仁愛女子短期大学研究紀要第53号	COVID-19対策としてフル・オンライン化した授業のために、FD研修会、公開授業、授業評価アンケート等、リデザインしたFD活動を報告。 共著者：田中洋一，内田雄，増田翼 本人担当：FD活動の統括
17. リアルタイム配信（同期型）オンライン授業の設計と実践	単著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 104-107	2020年後期に担当した幼稚園免許必修科目「教育の方法と技術」において、どのようにリアルタイム配信（同期型）オンライン授業を設計し実践したのかを報告。
18. 2年制保育者養成校のディプロマ・ポリシー（学習成果）についての検討-本学幼児教育学科のディプロマ・ポリシー（学習成果）を中心に-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 6-14	全国養成校におけるDPの現状調査、本学DPのセメスター毎の分布を分析した結果を報告。 共著者：松川恵子，香月拓，田中洋一，内田雄 本人担当：データの前処理方法，グラフ化等
19. 2年制保育者養成校のアドミッション・ポリシーについての検討-高校の学びから養成校の学びへ-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 22-30	全国養成校におけるAPの現状調査、本学学生を対象とした高校と短大との学びの接続における意識調査の結果を報告。 共著者：香月拓，松川恵子，田中洋一，内田雄 本人担当：データの前処理方法等
20. 初年次カリキュラムの検討-高校の授業科目との関連について-	共著	令和3年3月	2018年度採択 文部科学省 私立大学研究 ブランディング事業 2020年度成果報告書 pp. 83-89	新カリキュラムの初年次開講科目に関する教員対象アンケートを分析した結果を報告。 共著者：香月拓，松川恵子，田中洋一 本人担当：分析結果のまとめ方
21. 地方私立短期大学におけるオンライン授業の設計	共著	令和3年3月	情報処理学会研究報告 Vol. 2021-CLE-33, No. 12, pp. 1-4	COVID-19の対策として、仁愛女子短期大学にて2020年度に取り組んできた学習支援システムの運用事例、遠隔授業研修会、アンケート調査等に関して報告する。 共著者：田中洋一，野本尚美，島田貢明 本人担当：FD活動

22. オンラインでのキャリア教育科目におけるSELの設計と進路選択自己効力の向上	単著	令和3年3月	JSiSE Research Report vol.35, no.6, pp.27-30	2020年度1年前期に実施したキャリア教育科目におけるSELの設計及び進路選択自己効力の向上に関して報告する。
23. オンライン授業におけるキャリア教育の設計と実践	単著	令和2年10月	日本教育工学会研究報告集20(3)pp.185-188	Social and Emotional Learningに配慮して2020年度前期にオンラインで開講したキャリア教育科目の設計と実践について報告。特に、情動知能に関する尺度について考察。
(その他) 【国際会議発表】 1. Designing and Assessing Course for Community Cooperative Learning in Fukui Academic Alliance: Development of UR Sheets (査読付)	共著	令和6年1月	The 9 th IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2024)	This paper reports on the reflection sheet “UR Sheet” that we designed to facilitate the reflections along the ALACT model. The 23 students from four universities who participated in the class in the 2021 academic year showed a significant increase of 5% on the intrinsic motivation scale’s ‘sense of competence’ and ‘desire for competence’ subscales as a result of taking this class. 共著者：田中洋一, 山川修 本人担当：地域協働学習の評価
【科学研究費採択】 1. SELのためのラーニングアナリティクス	研究分担者	2021-2024	挑戦的研究(萌芽)	本研究は高等教育の学習者を対象として、教育実践環境でのウェアラブルセンサ等を用いた学習者のデータ収集・分析により学習者の非認知的能力を評価することを介してSEL(すなわち社会情動的スキルの育成)を支援する方法(SELのためのラーニングアナリティクス)を構築することと、およびそれに立脚し自律的学習者を育成するSELの実践のためのプログラムを提案することを目指す。 研究代表者：多川孝央(九州大学) 研究分担者：田中洋一, 山川修
2. データ駆動型・ナレッジ駆動型アプローチを融合させたフィードバック誘起モデルの開発	研究分担者	2020-2023	基盤研究(B)	本研究では、自身の成長のために有用なフィードバックを誘起するために必要な要因を明らかにし、体系的にモデル化することを目的としている。研究方法は、データ駆動型アプローチとナレッジ駆動型アプローチを組み合わせる。研究範囲は、学習者とフィードバック提供者の1対1の場面、研究会のような学習者と複数のフィードバック提供者がいる1対多の場面とする。また、フィードバックをもらう場面だけでなく、その前後の要因も含め、動的・静的なフィードバック誘起要因を同定する。本研究では、フィードバックの提供だけでなく、学習者からの働きかけにより、より質の高いフィード

				バックを誘起する手法を提案する。 研究代表者：合田美子(熊本大学) 研究分担者：山田政寛，石毛弓， 田中洋一，山本佐江
3. 深いアクティブラーニングのための心理的安全性尺度の開発と評価	研究代表者	2019-2023	基盤研究(C)	人材開発や組織論の分野では成功するチームの構築に最も重要なものは、心理的安全性であると言われていいる。「学生が他者と関わりながら、対象世界を深く学び、これまでの知識や経験と結びつけると同時にこれからの人生につなげていけるような学習」と定義される深いアクティブラーニングを教育分野で設計するためにも心理的安全性が重要なことを明らかにしたい。心理的安全性がどの程度のレベルであるかを調べ、学習成果物の質との関連性を分析するため、本研究では日本の高等教育における心理的安全性の尺度を作成し、評価することをめざす。 研究代表者：田中洋一 (仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修
4. ビッグデータ時代における異なる学習履歴データを共通の視点で分析する方法論の構築	研究分担者	2016-2019	基盤研究(B)	学習を分析することによりトップダウン的に、自律的学習者の学習モデルを提案し、いくつかの指標でその妥当性を確認した。このモデルには、内省、信頼、意味の3つの要素が含まれているが、その3つの要素の基礎には、アタッチメント理論で示されている Secure Base があるのではないかという仮説を提示している。このモデルを利用することにより、データを分析する上での共通の視点を与えることになる。 また、上記のモデルを実証的に検証するため、ウェアラブル・センサーを使って効率よくデータ収集するシステムを構築した。 研究代表者：山川修(福井県立大学) 研究分担者：田中洋一，井上仁，多川孝央，徳野淳子，安武公一，隅谷孝洋
5. 主体的な学習を習慣化するアクティブラーニング評価eポートフォリオシステムの開発	研究代表者	2016-2019	基盤研究(C)	基礎学力や学習意欲の低い学生がeポートフォリオ学習を習慣化するため、経験学習に基づくリフレクション・プロンプトモデルを設計した。また、学生がeポートフォリオに学習成果物を蓄積するサイクルを習慣化する仕組みとして、リフレクション・プロンプトモデルに従った対話が可能な振り返り支援AIチャットボットを開発した。 研究代表者：田中洋一 (仁愛女子短期大学) 研究分担者：森本康彦，宮崎誠，山川修

<p>6. 生涯学習におけるスキルアップを支援するeポートフォリオシステムの構築と実践</p>	<p>研究分担者</p>	<p>2014-2017</p>	<p>基盤研究(C)</p>	<p>生涯学習におけるスキルアップを支援するeポートフォリオシステムの構築と実践を行った。海外の活用事例を参考にしつつ、日本の教育事情に応じた生涯学習支援eポートフォリオシステムの設計方針を明確にした。生涯学習で使用できるeポートフォリオ構築のために、既存のサービスやツールを用いたeポートフォリオ構築指標を作成した生涯学習におけるスキルアップ支援を実践するためのeポートフォリオのプロトタイプを2種類設計した。一つは既存のサービスを用いたeポートフォリオである。もう一つは生涯学習におけるスキルアップに焦点化したeポートフォリオとして、読書に焦点を当てたeポートフォリオシステムを設計・開発した。 研究代表者：平岡齊士(熊本大学) 研究分担者：中嶋康二，田中洋一，松葉龍一，久保田真一郎，桑原千幸，鈴木克明</p>
<p>7. 真正な学習のために外部共同体を利用する学習環境のデザイン</p>	<p>研究代表者</p>	<p>2011-2013</p>	<p>基盤研究(C)</p>	<p>福井県内の高等教育機関連携プロジェクト「フレックス」で形成している学習共同体を利用し、真正な学習環境を構築する実践研究を行った。フレックスの基盤システムである、オープンソースのLMS (Moodle), eポートフォリオ (Mahara), SNS (OpenSNP) を連携した授業や学生支援の設計を行い、学習効果を分析した。真正な評価方法であるeポートフォリオの実践事例を増加させるため、Mahara ユーザコミュニティやMahara オープンフォーラムの運営に関わっている。 研究代表者：田中洋一(仁愛女子短期大学) 研究分担者：山川修，鈴木克明</p>
<p>【国内学会発表】</p> <p>1. 参加者企画セッション：自律的な学びに「安心さ」が果たす役割とは</p> <p>2. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の評価：不安の外在化によるストレス対処力の変化</p> <p>3. ファシリテータのあり方を育成するための授業設計</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>令和7年3月</p> <p>令和7年3月</p> <p>令和7年3月</p>	<p>第31回大学教育研究フォーラム発表論文集 pp. 93</p> <p>日本教育工学会 2025年春季全国大会講演論文集 pp. 239-240</p> <p>日本教育工学会 2025年春季全国大会講演論文集 pp. 243-244</p>	<p>Safeology 研究所の研究員が『自律的な学びに「安心さ」が果たす役割とは』というタイトルに基づき話題提供し、参加者と議論する。 共著者：山川修，富永良史，藤平昌寿，早川公，田中洋一 本人担当：話題提供「安心・安全への3つのアプローチを用いたキャリア教育の授業設計」 プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材「Project 勇者」解決志向アプローチ版を授業で使用した際のストレス対処力の変化に関する報告。 共著者：田中洋一，白澤秀剛 本人担当：ストレス対処力の調査あり方に重点をおいた大学連携科目「ファシリテーション基礎」の授業設計及びSOC(首尾一貫感覚)の結果を報告。 共著者：山川修，田中洋一 本人担当：プロセス・エデュケーションの授業設計</p>

4. 存在論的安心尺度の試作-ストレス対処力との相関-	共著	令和 6 年 9 月	日本教育工学会 2024 年秋季全国大会講演論文集 pp. 65-66	存在論的安心尺度試作版とストレス対処力尺度 (SOC) との相関に関する報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 磯和壮太郎, 石井雅章, 多川孝央, 山川修 本人担当: 心理尺度調査
5. 存在論的安心尺度の試作: 短大生に対するプレ調査	共著	令和 6 年 8 月	第 49 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 225-226	存在論的安心尺度試作版の短期大学生へのプレ調査結果の報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 磯和壮太郎, 石井雅章, 多川孝央, 山川修 本人担当: 心理尺度調査
6. 研究シンポジウム: 自身の成長のために有用なフィードバックをどう誘起するのか	共著	令和 6 年 3 月	日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集 pp. 9-10	学習におけるフィードバック (FB) の重要性を共有し, 自身の成長を促す FB をどう誘起できるか, FB シーカーに何が必要かを検討. 共著者: 合田美子, 石毛弓, 山本佐江, 可部繁三郎, <u>田中洋一</u> 本人担当: 量的アプローチの検証, 進行
7. プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の評価: 不安へのサポート経験によるストレス対処力の変化	共著	令和 6 年 3 月	日本教育工学会 2024 年春季全国大会講演論文集 pp. 245-246	授業でプロジェクト型学習支援教材 Project 勇者を使用した際のストレス対処力の変化に関する報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 白澤秀剛 本人担当: 心理尺度の分析
8. 大学連携で取り組む地域協働学習のプログラム評価	共著	令和 5 年 9 月	日本教育工学会 2023 年秋季全国大会講演論文集 pp. 413-414	福井県の大学が連携して取り組む地域の問題解決のための 2021 年度授業のプログラム評価に関する報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修 本人担当: プログラム評価
9. 社会情動的スキルを身につけるキャリア科目の設計と評価 - ストレス対処力の変化 -	共著	令和 5 年 8 月	第 48 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 91-92	社会情動的スキルを身につけるキャリア科目として 2022 年度に直面で実施した授業設計及びストレス対処力の変化に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 多川孝央, 山川修, 合田美子 本人担当: 授業設計及び評価
10. 文系短期大学におけるデザイン思考科目の授業設計	単著	令和 5 年 3 月	日本教育工学会 2023 年春季全国大会講演論文集 pp. 439-440	文系短期大学においてデザイン思考を学ぶ科目「情報デザイン総論」の授業設計について報告.
11. 発表動画を活用した短期大学ゼミの授業設計	共著	令和 4 年 11 月	日本教育メディア学会 第 29 回 年次大会発表集録 pp. 186-187	短期大学のゼミである「マイプロジェクト」や「卒業研究」の発表に YouTube や LMS を活用する授業設計に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 澤崎敏文 本人担当: ゼミの授業設計
12. 習得主義にもとづく保育者研修の設計: デジタル・バッジの活用に向けて	共著	令和 4 年 8 月	日本教育工学会 2022 年秋季全国大会講演論文集 pp. 143-144	開発したキャリア・ルーブリックに従うデジタル・バッジを活用した習得主義に基づく研修設計を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 中尾繁史, 増田翼, 天野慧 本人担当: 研修システムの設計
13. 大学連携で取り組む地域協働学習による情動知能の変化	共著	令和 4 年 8 月	第 47 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 57-58	福井県の大学が連携して取り組む地域協働学習の 2021 年度授業では, 内発的動機づけ尺度の下位尺度である有能感と有能欲求が 5% 有意で向上した. 本稿では情動知能の尺度である日本語版 WLEIS の変化を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修 本人担当: 授業評価

14. BYOD を活用した Problem Based Learning の設計	共著	令和 4 年 7 月	日本教育メディア学会研究会論集 第 53 号, pp52-55	主体的・対話的に衣・食・住・情報について深く学ぶため, シナリオを用いた PBL をどのように授業設計したか, リアルタイム配信 (同期型) 遠隔授業及び BYOD を活用した面接授業に関して報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 前田博子 本人担当: 授業設計
15. 高校出前授業としてのマーケティング科目の設計	共著	令和 3 年 10 月	日本教育工学会 2021 年秋季全国大会講演論文集 pp. 275-276	高等学校の「総合的な探求の時間」にて, 大学教員がマーケティングの授業を行った際の Instructional Design 及び学習効果について考察. 共著者: <u>田中洋一</u> , 澤崎敏文 本人担当: 授業設計
16. オンラインでのキャリア教育科目における SEL の設計	共著	令和 3 年 9 月	第 46 回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 47-48	昨年度に実施した遠隔でのキャリア教育科目を, Social and Emotional Learning の観点でデザインした 2021 年度の授業設計を報告. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修, 合田美子 本人担当: 授業設計
17. 幼児教育における e ポートフォリオの可能性	共著	令和 3 年 7 月	日本教育メディア学会研究会論集 第 51 号, pp27-30	e ポートフォリオを幼児教育に導入した場合, 保護者及び保育者がどのように支援して, 幼児自身がセレクトするショーケース・ポートフォリオを作成すべきかを報告. 共著者: 田中洋一, 中尾繁史, 増田翼, 森本康彦 本人担当: 全体統括
18. 保育者養成課程における同期型遠隔授業の設計: SEL の効果	共著	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会発表論文集 pp. P267-P268	幼児教育学科科目「教育の方法と技術」にマインドフルネスを取り入れた効果を情動知能尺度にて分析. 共著者: <u>田中洋一</u> , 香月拓, 木下由香, 乙部貴幸 本人担当: 授業設計, 評価
19. 2 年制保育者養成カリキュラムについての検討②-高校の学びと初年次の学びとの接続について-	共著	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会発表論文集 pp. P529-P530	幼児教育学科 1 年次科目担当教員を対象として, 高校の学びとの繋がりの意識調査を実施した結果を報告. 共著者: 香月拓, <u>田中洋一</u> , 松川恵子 本人担当: 分析方法への助言
20. 保育者養成におけるオンライン授業「教育の方法と技術」の設計	単著	令和 3 年 3 月	JADA&UeLA 合同フォーラム 2020 予稿 pp. 24-27	オンライン授業「教育の方法と技術」でのグループワーク, グループ発表, 模擬保育の設計・実践について報告.
21. オンライン授業におけるプロセス・エデュケーションの設計: フィードバックの心理的安全性への影響	共著	令和 3 年 3 月	日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集 pp. 317-318	オンライン授業におけるプロセス・エデュケーションの設計及び学習支援システムの活用方法を報告. また, フィードバックによる心理的安全性への影響について, リフレクションシートを考察. 共著者: <u>田中洋一</u> , 山川修, 合田美子, 山田政寛, 石毛弓, 山本佐江, 可部繁三郎 本人担当: 授業設計
22. デザイン思考を使った PBL のオンライン化の試行	共著	令和 3 年 3 月	日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集 pp. 67-68	デザイン思考を使った地域の問題解決型授業をオンライン化する際の工夫点及び課題について報告. 共著者: 山川修, <u>田中洋一</u> 本人担当: 評価

23. 学習者の視点でとらえたピア・フィードバックの特徴	共著	令和3年3月	日本教育工学会 2021年春季全国大会講演論文集 pp. 75-76	小学校教員志望学生の教育評価科目におけるパフォーマンス評価でのピア・フィードバックの特徴を報告. 共著者：山本佐江，合田美子，石毛弓，可部繁三郎， <u>田中洋一</u> ，山田政寛 本人担当：評価手法のチェック
24. 2年制保育者養成校における3ポリシーの検討-アドミッション・ポリシーと高校の学びとの関連について-	共著	令和3年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会プログラム・抄録集 pp. 39	APと高校の学びとの関連について調査・分析し，その特徴や実態を報告. 共著者：香月拓， <u>田中洋一</u> ，松川恵子 本人担当：分析手法のチェック
25. 2年制保育者養成校における3ポリシーの検討-本学における各授業の目標とディプロマポリシー（学習成果）との関連について-	共著	令和3年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会プログラム・抄録集 pp. 38	本学2019年度入学生の各授業における「到達目標」をDP（学習成果）との関連で考察. 共著者：松川恵子， <u>田中洋一</u> ，香月拓 本人担当：分析手法のチェック
26. 遠隔授業におけるSELのためのリフレクション及びフィードバックの設計	単著	令和2年9月	日本教育工学会 2020年秋季全国大会講演論文集 pp. 129-130	遠隔授業における Social and Emotional Learning を構築するためのリフレクション（経験学習サイクル）及びフィードバックの設計及び実践について報告.
27. 遠隔授業におけるSELの設計	単著	令和2年9月	第45回 教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp. 71-72	非同期型や同期型の遠隔授業において，どのようにSELを設計・実践しているかを報告.
28. 幼児教育におけるプログラミング教育の可能性	共著	令和2年5月	日本保育学会 第73回大会	先行研究，教員免許状更新講習，幼児教育学科の授業を通して，幼児教育におけるプログラミング教育の可能性を考察. 共著者： <u>田中洋一</u> ，香月拓，松川恵子 本人担当：授業設計
29. 保育士養成課程学生における保育専門職と養成に対する意識調査	共著	令和2年5月	日本保育学会 第73回大会	保育士及び看護師の職業イメージを短大生に対して調査・分析した結果を報告. 共著者：乙部貴幸，賞雅さや子，木下由香， <u>田中洋一</u> 本人担当：生活情報専攻学生の調査